

飛鳥学冠位叙任試験（上級編 筆記）問題【解答】

1. 平成 26 年、推定地から瓦窯の遺構が見つかり注目を集めた藤原宮の瓦の最大生産地は？
A 高台・峰寺瓦窯
2. 「まそ鏡」という枕詞がついて『万葉集』で詠われた明日香の山は？
A 南淵山
3. 神仙思想にある三神山とは、瀛州・方丈とあと一つは？
A 蓬莱
4. 『続日本紀』によると諸国の郡郷の名に好字をつけよと勅命が出されました。いつ？
A 和銅 6 年 (713)
5. 舒明 2 年 (630)、第 1 次遣唐使の大使として派遣されたのは？
A 犬上御田鍬
6. 藤原宮の発掘調査が始まったのは昭和 9 年 (1934)、手がけたのは？
A 日本古文化研究所
7. 『日本書紀』朱鳥元年 (686) には飛鳥の 5 大寺または 6 大寺があげられています。全寺院の名前は？
A 大官大寺、飛鳥寺、川原寺、坂田寺、小墾田・豊浦寺
8. 斉明 7 年 (661)、筑紫朝倉宮で斉明天皇が崩御して以来、天皇空位で中大兄皇子による称制の後、天智天皇として即位したのはいつ？
A 天智 7 年 (668)
9. 有間皇子が謀反の名において処刑された場所は？
A 紀伊国 藤白坂

10. 『日本書紀』によると推古4年(596)法興寺が竣工し蘇我馬子の長男が寺司に就いたと
さ

れます。長男の名は?

A 蘇我善徳ぜんとこ

11. 天智9年(670)、全国にわたる最初の戸籍がつくられたといわれます。戸籍の名前は?

A 庚午年籍こうごねんじやく

12. 飛鳥坐神社にルーツをもつといわれる日本の民俗学者、国文学者の折口信夫は詩人・歌人
でもあり〇〇と号しました。〇〇は?

A 釈しゃく 迢空ちょうくう

13. 飛鳥川の上流、稲渕の集落を過ぎた村はずれに神社があり別名「宇佐宮」という。正式名
は?

A 飛鳥川上坐宇須多伎比売命神社あすかかわかみにいますうすたきひめのみことじんじや

14. 百濟最後の王ので唐・新羅連合軍と戦い、敗れて長安に連行されたのは?

A 義慈ぎじ

15. 『日本書紀』の所伝によると、応神朝から軍事氏族としての活躍が見え、履中朝に国政に携わ
るようになった。葛城氏没落後の雄略朝以降、真鳥(まとり)が「大臣」を歴任して一族の興隆
を極めた。この氏族は?

A 平群氏

16. 「明日香川 明日谷将見等 念八方 吾王 御名忘世奴」(万葉集 2-198)

この歌は柿本人麻呂作ですが、ある皇女が亡くなったことを悲しんだ歌と言われます。亡く
なった皇女は?

A 明日香皇女

17. 古代の土器の特長的装飾で、土師器の内側を飾る特殊な文様を指す考古学用語は?

A 暗文 (あんもん)

18. 持統9年(695)生まれ、養老元年(717)に阿倍仲麻呂、玄昉らと遣唐使として入唐し、天平7年(735)多くの典籍を携えて帰朝、その後正二位右大臣まで昇任した学者は?

A 吉備真備

19. 現在、入鹿の首塚として親しまれている五輪塔。仏教考古学の泰斗、石田茂作は『飛鳥時代寺院址の研究』の中で何と記している?

A 馬子塚

20. 『三経義疏』のうち、聖徳太子の自筆とされる巻物が伝わっているのは?

A 法華義疏

21. 古代の裁判と言われる「くがたち」、漢字で書くと?

A 盟神探湯

22. 「○○も 少し動みて さし曇り 雨も降らぬか 君を留めむ」(万葉集 11-2513 作者不詳)は、新海誠監督のアニメ「言の葉の庭」(2013)のモチーフとなった歌です。○○に入るのは?

A 雷神 (なるかみ)

23. 飛鳥水落遺跡で、基壇の地中に置かれた礎石を強固に固定するために用いられた土木技術は?

A 地中梁

24. 坂田寺の起こりとして、鞍作氏に関し「継体天皇 16年壬寅(522)2月に入朝した大唐漢人であり大和国高市郡坂田原に草堂を営み本尊を安置・・・」と記している書物は?

A 扶桑略記

25. 「壬申の乱」勃発時、倭京の留守司を務め、大友皇子側の軍営を飛鳥寺西の槻の樹の広場に設けたのは?

A 高坂王

26. 11歳で出家し、高句麗僧恵便に師事し15歳の時百済に留学した日本人最初の尼僧は？

A 善信尼

27. 推古天皇は崇峻5年(592)、豊浦宮に即位し在位36年小墾田宮にて崩御したが何歳で崩御した？

A 75歳

28. 『古事記』『日本書紀』に、檜隈廬入野宮の記述があるが何天皇の宮？

A 宣化天皇

29. 岡寺本尊は我国最大の塑像で4.8メートルに達する。本尊名は？

A 如意輪観音坐像

30. 5世紀に書かれたという『後漢書』の中に、倭奴国が後漢に朝貢して金印を授かったと記されています。時の後漢皇帝は？

A 光武帝(劉秀)

飛鳥学冠位叙任試験（上級編 論述）問題

3 1. 牽牛子塚古墳が斉明天皇陵とされる根拠について、発掘調査成果を踏まえて書きなさい。またその保存・活用についての意見を述べなさい。

（模範解答）

『日本書紀』によると、斉明天皇は 661 年に崩御したのち、667 年に間人皇女と「小市岡上陵(越智岡上陵)」に合葬されたと記されている。また、同日には大田皇女を「陵の前の墓に葬す」とも記されている。

牽牛子塚古墳は現在の越大字にあり、古代の「小市(越智)」の地名が変化したものと考えられている。発掘調査では、対辺長約 22m の八角形の墳丘で、三段築成(バラス敷を含めると 5 段)であったことが判明した。石室は二上山で採石された凝灰岩の巨石を削り貫いて、二部屋を造りだしている。出土品には六角形の七宝飾り金具やガラス玉などがあり、棺は夾紵棺製で、女性の歯も出土している。また、牽牛子塚古墳のすぐ前(隣接して)では、越塚御門古墳が見つかった。鬼の俎雪隠と同構造の石英閃緑岩(花崗岩)の削り抜き式石槨をもち、漆塗木棺の破片が出土している。

現在、斉明天皇陵は、高取町車木に治定されているが、牽牛子塚古墳が**小市岡(越智岡)の丘陵上**にあり、飛鳥時代の**天皇陵特有の八角形の墳丘**をすること、二人を**合葬するように二部屋が造られていること**、**夾紵棺**が天皇あるいはそれに準ずる人物の棺にしか使われていないこと、**七宝飾り金具**など身分の高い人物に副葬されていたと考えられることから、牽牛子塚古墳の被葬者は、**斉明天皇と間人皇女の合葬墓**の可能性が高い。さらに古墳のすぐ前で、塚御門古墳が発見されたことから、そこが**大田皇女墓**と推定され、『日本書紀』との**整合性が高い**ことも、この説を補強する。

保存・活用については自由作文

3 2. 万葉集より

「故郷の ^{ふるさと} 飛鳥 ^{あすか} はあれど あおによし ^{なら} 平城の明日香 ^{あすか} を ^よ 見らしく好しも」

（『万葉集』巻 6・992）

この歌について述べなさい。

（模範解答）

（訳）古京となった飛鳥もよいけれども、青丹よき奈良の明日香を見るのもよいことよ。

大伴坂上郎女（兄は大伴旅人、甥は大伴家持）の詠んだ歌。

元興寺と、飛鳥寺（法興寺）を詠み込んでいる。

飛鳥寺（法興寺）を平城遷都にともない移建したのが元興寺（718年）。

元興寺が移建されたのは養老 2 年（718）。

今年（2018）は 1300 年の記念年にあたる。

法興も元興も、最初に仏法が興隆したという意味。

奈良時代の元興寺は、東大寺や興福寺と並ぶ大伽藍を誇っていた。

現在の「ならまち」は旧境内。

『万葉集』中の奈良時代の歌では、飛鳥が「故郷」と表現されている。

藤原京や近江京、難波京などは「故郷」とは表現されないことから、飛鳥の特異な位置付けが窺える。
など

33. 今年は飛鳥寺から元興寺に法灯が遷って1300年を迎える節目の年です。飛鳥寺と元興寺に関して知るところを述べなさい。

(模範解答)

飛鳥寺 奈良県高市郡明日香村飛鳥。遺跡は国指定史跡。我が国最初の本格的寺院。**法興寺、大法興寺、元興寺**とも称し、平城京の元興寺に対して**本元興寺**とも。

『日本書紀』によると587年物部守屋討滅に際し蘇我馬子が創建を発願し、588年百濟から仏舎利、僧侶、寺工、鑪盤博士、瓦博士、画工らが来日して、飛鳥衣縫造の祖、樹葉の家を寺地として飛鳥真神原で造営がはじまった。**590年山で寺材を取り**、592年仏堂・歩廊を起し、593年(推古天皇元年)仏舎利を塔心礎に埋納、心柱(刹柱)を立てた。

出土する創建時の瓦の文様は百濟の瓦とよく似ており、百濟工人の関与を示す。

718年(養老2年)、元興寺は平城京へ移転したが、**金堂・塔**などは旧地に残り、一部の建物のみを移したらしい。

元興寺 平城京左京四・五条七坊に**718年(養老2年)**に建てられた寺院。平城遷都にあたって飛鳥寺を移した。塔跡・小塔院・極楽坊境内が国史跡。飛鳥寺、新元興寺とも。当初の寺域は興福寺の南に接し、東西250m、南北500mの広大なもの。平安遷都とともに衰退しはじめ、15世紀に土一揆で金堂と小塔院が消失して境内に町屋が進出。

中世以降、智光院曼荼羅の進行を中心に念仏道場となった極楽坊が中心となり、現在に至る。

創建時からの建築は僧房(東室南階大房、現在の禅室で国宝。)の一部が残るのみ。**元興寺禅室に残る建築部材を年輪年代法で年代測定したところ**、巻斗の一つが**588年以降**ほどなく伐採されたものであることが判明。**590年**に山で材を取ったという飛鳥寺創建と合致する。

禅室の屋根には飛鳥寺出土瓦と共通する行基葺きの瓦が現在も葺かれている。瓦当文様のほか平瓦や丸瓦にも明らかに飛鳥寺創建瓦と同じ技法や道具で制作されたものが含まれている。飛鳥寺の平城移転は寺籍だけでなく建物も一部伴っていたことが考古資料からも裏付けられた。

採点ポイント

飛鳥寺は元興寺とも言った。

飛鳥寺が平城遷都にともなって元興寺として移ったが、移転した建物は一部で、飛鳥の飛鳥寺も存続した。

現在の元興寺極楽坊の禅室には古い建築部材が残っている。屋根の瓦には飛鳥寺と共通する文様や形態、技法が看守され、飛鳥時代の古瓦であることから、飛鳥寺から運ばれたと考えられていた。近年、禅室に残されていた部材(巻斗)の年輪年代測定で6世紀末の伐採というデータが得られ、飛鳥寺創建時の建物の一部が平城に運ばれて元興寺で利用されていたことが裏付けられた。

34. 古代の飛鳥地域や藤原京は、全国からモノ(土器や食料など)が集まる一大消費地でした。考古学の成果を踏まえつつ、古代におけるモノや人の動きについて、今後どのようなことが明らかになるか、想像を交えながら推測してください。

(模範解答)

7世紀の飛鳥が一大消費地であったことは、考古学的な事実において明らかである。例えば、飛鳥時代の須恵器は、飛鳥地域の近くにその窯が見つかっていないため、近くても和泉国（大阪府）、遠くなると尾張国・参河国（愛知県）、美濃国（岐阜県）や備前国（岡山県）から運ばれてきたものなど、他の地域から運ばれてきたものからなると考えられる。また、寺院や宮殿の屋根をかざる瓦のなかには、近くの瓦窯で焼かれたものもあるが、藤原宮で用いられたものには遠く四国から運ばれてきたものもある。最近も藤原京で「唐三彩」が出土したように、海外からもたらされた陶器が見つかることもある。いずれの場合でも、モノの産地を正確に推定することによって、当時の人の動きをさらに詳しく知ることができる。さらには飛鳥時代の間にも、おもな産地に変化が生じたかどうかや、新しい産地が加わったかどうかなど、これまで知られていなかった事実が明らかになるかもしれない。(403字)